

2021年12月20日

People's World (“Daily Worker”の後継紙)

People's World traces its lineage to the *Daily Worker* newspaper, founded by communists, socialists, union members, and other activists in Chicago in 1924.

チリ国民はガブリエル・ボリックを大統領に選出 超保守候補を拒否



ボリックの勝利を祝う左派連合の集

会

12月19日、大統領選の決選投票が行われた。

億万長者のカスト候補（キリスト教社会戦線）を破り、左翼連合のボリック候補（35歳）が勝利した。

それはこの国を支配し続けたピノチェト独裁政権の最終的敗北を意味する。

ピノチェト残党は、1990年に独裁が終わった後も大きな影響を残し続けた。ピニエラ前大統領は、ピノチェト残党の復権をさえ画策した。

それは2019年10月、大規模な抗議を呼び起こした。デモ参加者は青年、労働者、年金受給者、先住民の権利を要求した。

彼らはまた、1980年にピノチェトが作った憲法に代わる新しい憲法を求めた。

民衆の抗議運動に屈したピニエラ政権は、今年5月に新憲法作成のための憲法制定会議を創設せざるを得なかった。

左派が多数を占めた制憲会議では、いま、ピノチェット時代の法律と規制を違憲化＝無効化しようとしている。

しかしカストが大統領になれば、新憲法の承認と実施には大きな困難が発生しただろう。

大統領選挙の経過

11月21日、第一次投票が行われた。7つの政党が候補を擁立した。この投票では1位がカストで28%、2位がボリックで26%だった。

この投票で注目すべきことは、投票率の47%という低さである。

そしてこの度の決選投票ではボリックが56%を獲得し、44%のカストに圧勝したのである。この時の投票率は55%に達した。国民は最終レースに的を絞ったのである。

左翼を支えた社会運動

チリでは非民主的制度のもとでの政党への不信があり、選挙・投票行動はあまり盛んではなかった。

チリの社会運動には2008年と2011年の学生・高校生運動と2019年からの市民運動という大きな流れがある。新大統領のボリックも、この流れを代表する若者の一人である。

チリ南部で育ったボリックは、2011年の学生運動の高揚時に、指導者として注目を集めるようになった。

彼は政党に属さず、無所属の候補として国会議員となった。彼の主な公約は、先住民の権利を保護し、年金改革と公教育を支援し、国民皆保険を導入し、富の不平等の削減に取り組むことであった。

左翼統一候補の選出過程

2021年7月、左翼統一候補を決めるための予備選挙が行われた。

ボリックは最有力候補であった。ボリックは「社会集中党」を組織し、中道左派の諸政党を中道左派連合に結集した。共産党を中心とする左派連合は、大サンチアゴ市のレコレータ区長であるダニエル・ハドゥエを擁立した。

ボリックが勝利し、左派はボリック支持で一致した。こうして強固な左翼連合が形成された。

大統領選挙の争点

カストは選挙戦当初より、強力なイデオロギー攻撃を仕掛けた。

それは第一に激しい反共攻撃であり、第二に家族の絆を壊す人工妊娠中絶に反対するというキャンペーンだった。

彼には誇るべき家族があった。彼の兄弟には経済学者、労働大臣、中央銀行総裁がいた。いずれもピノチェット独裁政権を支えた人たちであった。

彼の家族には隠しておきたい事実もあった。彼の父はドイツ移民であり、ドイツ在住時にはナチ党のメンバーだった。

彼の政策がチリをどこに導くかは最初から明らかだった。それは恐ろしいものであった。

カストは「秩序を立て直す」ことを訴えた。そのために

1. 「軍に超法規特権を付与する」ことをもとめた。
2. 権力の過剰な行使により訴えられた警官に法的防衛を与えることをもとめた。
3. 大統領に反対運動を取り締まるための実力行使権を与える。

反急進左派の国際連合を結成し、過激派分子の捜査、逮捕、起訴に至る協調を実現する。

(そして最後に) 国連を離脱する。

* 文章は尻切れトンボになっており、ネットで読めるのは全文ではないかもしれない。